戦略的創造研究推進事業
（社会技術研究開発）
令和３年度研究開発実施報告書

ＳＤＧｓの達成に向けた共創的研究開発プログラム

ソリューション創出フェーズ

「性暴力を撲滅する社会システム構築に向けた、早期介入とＰＴＳＤケア迅速化の人材育成および全国展開に向けた体制づくり」

研究代表者　長江 美代子
（日本福祉大学 看護学部、教授）

協働実施者　片岡 笑美子
（一般社団法人　日本フォレンジックヒューマンケアセンター、会長）

目次

１．研究開発プロジェクト名 2

２．研究開発実施の具体的内容 2

２‐１．目標 2
２‐２．実施内容・結果 4
..... 4
２‐３．会議等の活動 22

３．研究開発成果の活用・展開に向けた状況 23

４．研究開発実施体制 23

５．研究開発実施者 25

６．研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など 27

６－１．シンポジウム等 27
６－２．社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など 27
６－３．論文発表 28
６－４．口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表） 28
６－５．新聞報道・投稿、受賞等 28
６－６．知財出願 28

１．研究開発プロジェクト名

性暴力を撲滅する社会システム構築に向けた、早期介入とＰＴＳＤケア迅速化の人材育成および全国展開に向けた体制づくり

２．研究開発実施の具体的内容

２－１．目標

（１）目指すべき姿

①　地域における社会課題

性暴力被害は心的外傷後ストレス障害（以下PTSD）発症→生活困難→社会不適応→再被害、の悪循環が存在する。性暴力救援センター日赤なごや「なごみ」（以下「なごみ」）での対応件数は2016年開設以後の約5年間で、電話延べ7336件、来所延べ2108件、診察延べ699件、うち新規受付1473件であり、その2/3は愛知県および名古屋市の住民である。子どもの被害、特に思春期の被害は深刻で、利用者の約3割は18歳以下である。成人でも、被害後1年以上経過してからの来所者の70％は18歳未満で被害に遭い、数年から数十年、PTSD症状を抱え苦しんでいた。親族（実父、養父、兄弟など）からの被害は全体の25％に及ぶ。SNSによる被害も増加傾向である。18歳未満では、自分で「なごみ」に連絡してくることは少なく、被害の発覚までに時間がかかっている。特にコロナ禍でDV・虐待・自殺は増加、児童・生徒・大学生の性暴力被害は前年度より17％（26.3→43.2％）増加し、SNSや親族からの被害が目立っている。性暴力被害者のほとんどが被害直後から急性ストレス症状に悩まされ、その後は半数以上がPTSDを発症する現状に対し、日本のほとんどの性暴力被害者ワンストップ支援センター（以下OSC）が、PTSDに対応している精神科を探すのに苦慮している現状がある。本プロジェクトの調査では、愛知県内109件の精神科診療施設(個人を含む)のうち、27件がPTSD治療は行っておらず、ランダム比較試験でエビデンスが確立された治療法である、トラウマに焦点を当てた認知行動療法（TF-CBT）を基盤としたPTSD専門療法(For et al., 2013)について実施しているのは7件だった。PTSD治療を行っていない理由の半数以上は、診療時間に余裕がなくコメディカルスタッフが不十分という内容だった。地域のOSCに対して、半数は協力できないと回答した。協力できない理由は、①現状の精神科診療体制において、性暴力被害者が示す病理、たとえば解離に関するもの、複雑性PTSDおよび慢性化する経過でおこってきた依存などの合併症に対応する余地が、時間的にも人員的にも見いだせない、②トラウマをかかえた性暴力被害に対応する経験やトレーニングを受ける機会がないため対応できない、③OSCが認知されていない、であり、課題をあらためて認識した。個人の力が及ばない内容であり、時間をかけて国の施策に反映できる取り組みを続けていく必要があると考える。

シナリオ創出フェーズでは、病院拠点型ワンストップ支援センター（以下OSC）を拠点に、被害直後から中長期の性暴力被害者救援システム「NGM4S（NAGOMI for Survivors）救援システム」を構築した。このシステムを基盤に、まず県内の救命救急センターへのOSC拡充に向けた事業展開を図り、多機関多職種連携のための情報共有、データ構築を図っている。一刻も早くNGM4S救援システムを全国的に展開し、被害者のPTSD予防・治療・

回復を確実にする仕組みの確立が課題である。

②　目指すべき姿（ビジョン）

すべての性暴力被害者は救援され、予想されるPTSD発症に対して予防・治療・回復に沿った適正な医療が提供され、健康で社会生活が継続できる。OSCが、国連の推奨に基づき女性（人口）20万人に一箇所設置され、研修を受けたスタッフが配置されている。社会には性暴力は犯罪であるという認識が浸透しており、すべての性暴力被害者はためらうことなく助けを求め、二次被害を受けることなく、トラウマ治療を含め包括的な支援を一箇所で受けることができる。性暴力を許さない社会システムにより、将来的には性暴力は撲滅する。

（２）研究開発プロジェクト全体の目標

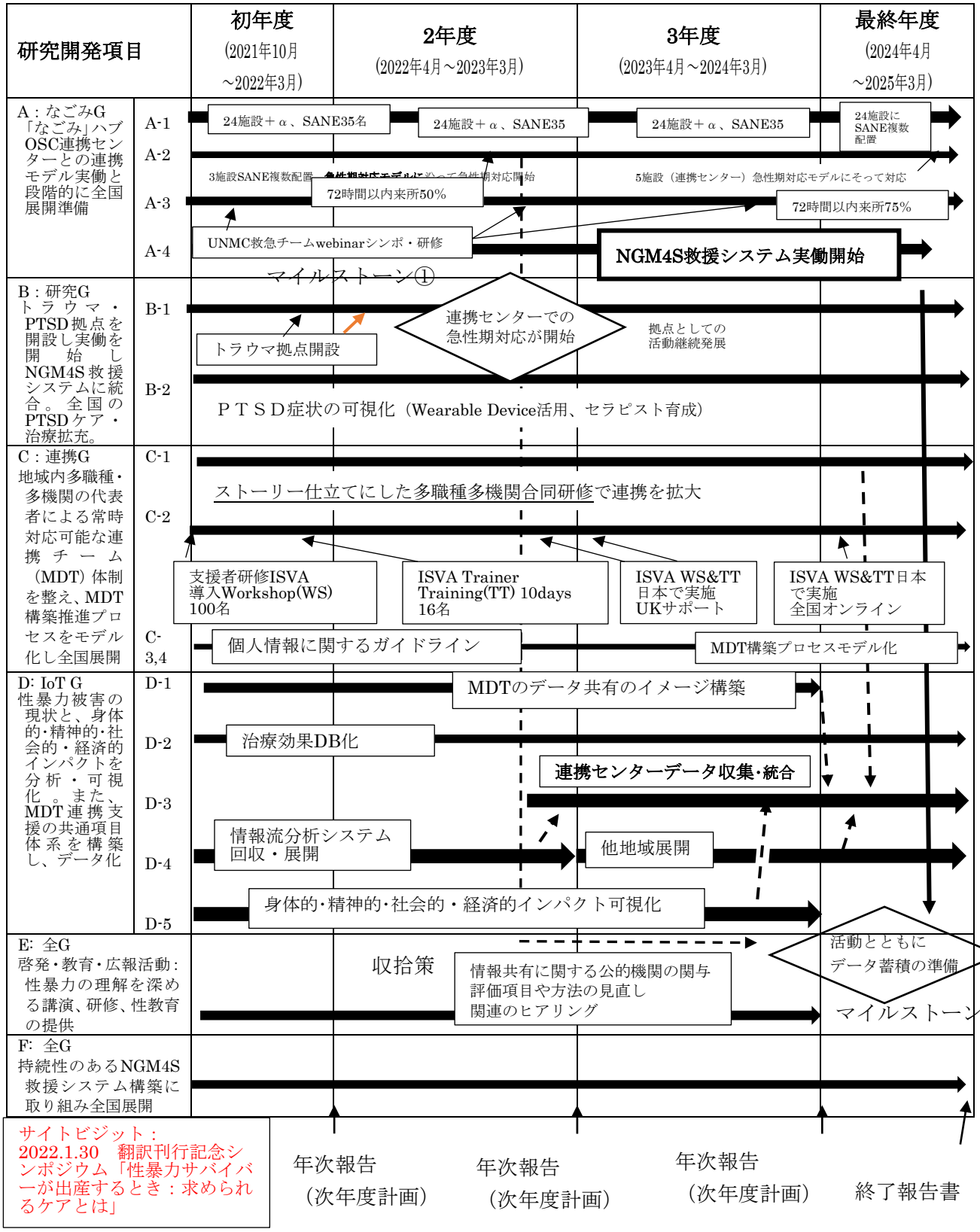
シナリオ創出フェーズでは、OSCを拠点に、性暴力被害直後から中長期の対応としてNGM4S救援システムを構築した。このシステムを基盤に、愛知県との協働で救命救急センターへのOSC拡充に向けた事業展開を図り、人材育成と関係機関の連携を促進する体制を構築し、実証試験を行う。関係者の連携体制の足がかりとなる自治体主導の連携協議会を開始し、多機関多職種連携のための適切な情報の流れの明確化と情報共有を進める。これらの事業展開・人材育成・連携構築・情報共有の方法を、他地域での展開を可能にするNGM4Sパッケージとして一般化し、全国展開を可能にする。

他地域への展開としてはNGM4Sパッケージの救援システムを構成する①急性期対応モデル、②多機関・多職種連携チーム（MDT）体制モデル、③PTSD治療技術、を地域毎にカスタマイズすることで他地域への導入を段階的に進める。情報共有システムとしては、整理された必要な情報の流れを元に簡素な共通コアシステムを構築し、他地域での展開を可能にするNGM4Sパッケージとして一般化する。

２－２．実施内容・結果

（１） スケジュール

研究開発期間中（36ヶ月）のスケジュール



（２） 各実施内容および
（３） 成果

今年度の到達点①：

（目標）なごみをハブとした愛知県内OSC連携センターモデルの初動を、小規模で開始できる。

実施項目①-1：OSC連携センター候補病院2カ所に急性期対応ができる体制を整備する。

実施内容：

- 愛知県性犯罪・性暴力被害者支援事業との協働により第 8 回目 SANE 養成研修を令和 3 年 10 月～令和 4 年 1 月（全 8 日間、65 時間）実施
- SANE プログラム受講の看護師は、急性期 OSC 導入へのアクションプランを立案し発表した。
- アクションプランの実施を支援するため、実践現場からの相談に対応した。
- 月 1 回のなごみ事例検討会への連携センター候補病院 SANE の参加を促進した。

変更点とその背景・理由等：

アクションプランの発表は、新型コロナ蔓延防止対策がとられたため、対面実施が不可能となり、資料共有となった。また、なごみ施設見学、研修、事例検討会、対面実施が困難となった。

成果：

- SANE プログラムには、計 30 名の看護師が受講（12 の OSC 連携施設より 22 名、他地域から 8 名）した。3 年間で愛知県連携センター所属の SANE は 7 1 名となった。
- 毎月第火曜日に開催しているなごみ事例検討会には、連携センター候補病院のSANEが複数定期的に参加している。

実施項目①-2：愛知県性犯罪・性暴力被害者支援事業との協働によりOSC連携センターに急性期対応モデルを導入し活動開始する。

実施内容：

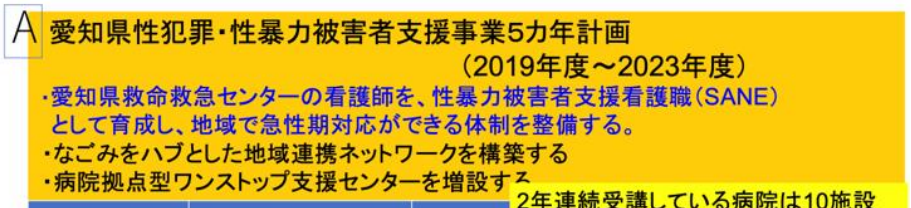
- 性暴力被害後 72 時間以内に支援につながる利用者の割合についてモニターするための関連項目を、過去 5 年間のなごみ利用者のデータを分析して抽出した。

変更点とその背景・理由等：

新型コロナ蔓延防止対策がとられたため、準備のための活動が限定され、連携して対応を開始するには至らなかった。しかし、OSC導入に意欲的な連携センター候補には精神科も加わり、遅れながらも進展できる計画である。

成果：

- 愛知県性犯罪・性暴力被害者支援事業との協働によるOSC拡充



年度	救命救急センター施設数	SANE養成プログラム受講施設及び看護師数	その他機関・施設からの受講者数
２０１９年度（対面）	２３施設	１８施設２６名	６名
２０２０年度（オンライン・一部対面）	２４施設	１２施設２１名	１０名
２０２１年（オンライン）	24+精神科、小児センター	１２施設２４名	１０名

表 1　愛知県性犯罪・性暴力被害者支援事業との協働

- 5年間のなごみデータ分析より把握した来所者の傾向
  - 来所までの時間が長くなるほどフラッシュバックに苦しめられる傾向がある
  - 生徒／学生ですでにリストカットなどの経験があるほど来所が遅れる傾向がある
  - 就業者では、２極化しており、７２時間未満の来所とともに来所までの時間が長いところで希死念慮や自殺企画が多い。
  - 特に就業者（年齢が高い層）で、被害を受ける以前にすでに精神科にかかっているケースが多い。（すでに性被害を受けていて（PTSD）に苦しんでいる女性が再度被害にあいやすい）

実施項目①-3：日本救急医学会、日赤愛知災害管理センターとの協働により、救急や災害の現場にける性暴力被害対応の体制を導入する。

実施内容：

- 救命救急センター外来での性暴力被害初期対応を具体化した。
- 米国ネブラスカ大学メディカルセンター（UNMC）救急部門のチームと協働 webinar シンポジウムを開催した（2021 年 11 月 20 日 9:00～12:00(日本時間)。

  テーマ：「救急&パンデミックにおける性暴力・DV対応とトラウマインフォームド・ケア 」

シンポジスト

・小西聖子氏　日本における性暴力被害者の急性期対応の課題
・片岡笑美子氏　性暴力被害者への急性期対応の現状およびCOVID-19の影響
・Cynthia Hernandez氏：　“Approach to a Survivor of Sexual Assault.”
・Amy Mead氏：“Patient Centered Trauma Informed Care.”
・Katherine Buehler氏：”Delivering Forensic Care during a Pandemic.”

成果：

- シンポジウム「救急&パンデミックにおける性暴力・DV対応とトラウマインフォームド・ケア 」　アンケート集計結果概要
- ホームページで資料公開　https://nfhcc.jp/

図 1　ネブラスカチームとの協働シンポジウム

- 参加者数　計160名（女性117名、男性12名、不明31名）
- 回答者数　98名（回収率　61%）
- 回答者の　92%（90名）が「とても満足」または「満足」した。
- 回答者の　84%（90名）が、自身の取り組みに「とても役立つ」または「役立つ」と回答した。

ネブラスカ研修　受講者アンケート

【受講者数　計160名】

〈内訳〉男性12名／女性117名／不明31名

年齢 age	20代	30代	40代	50代	60代	70代
	3名	7名	16名	13名	13名	7名

98 件の回答

職種　occupation

98 件の回答

〈内訳〉

健康・医療・福祉分野 health, medical, welfare field	61名
教育 education	13名
司法関連 judiciary	3名
その他 others	17名
無職／年金 no occupation / pension	4名

活動分野 area of activities

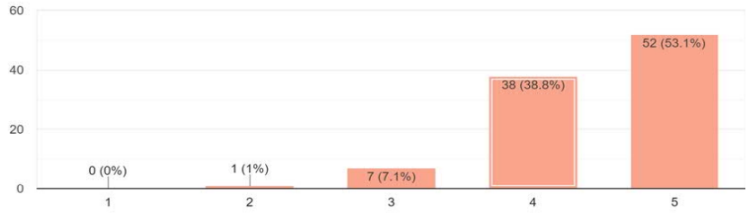
98 件の回答

〈内訳〉

ＤＶ／虐待/性暴力被害者支援関連 Support for victims of DV/Abuse/sexual violence	47名
救急救命医療 Emergency Medicine	5名
相談窓口 Consultation	14名
研修教育 Training & Education	6名
その他 others	26名

【アンケート回答】

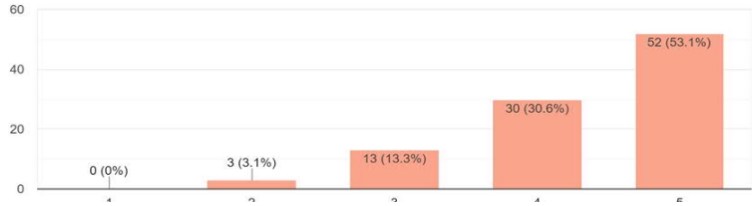
シンポジウムにはどのくらい満足されましたか。How satisfied were you with the symposium?
98 件の回答



〈内訳〉

5（とても満足）	52人
4	38人
3	7人
2	1人
1（不満足）	0人

ご自分の取り組みとの関連性や、とりくみに役立つ部分はありましたか。How relevant and helpful was it for your work?
98 件の回答



〈内訳〉

5（非常にあった）	52人
4	30人
3	13人
2	3人
1（全くなかった）	0人

このシンポジウムで、印象に残ったことについて自由にお書きください。
Feel free to write about what impressed you at this symposium.
44 件の回答

〈日本での取り組みについて〉
・日本も徐々に進みつつあるとは思いましたが、体系的な学習がまだまだ現場には浸透していないと思いました。
トラウマインフォームドケアについても、もっと実践的なものとして学んでいく必要を感じました。
アメリカなどのシステムを学び、日本にあうシステムを構築していくことが大切かなと思いました。
フォレンジック看護の取り組みに期待してます。
・支援に関わるものは急性期の反応やTICについて知ることは大事であり、
しかし、知識ばかり持つのではなく実際の対応に生かせないといけないこと。
・二次被害と中期・長期的な支援・コロナ禍の影響など
・治療者。かかわる人の教育の必要性を感じました。
・性被害の発生率の高さに衝撃を受けました。日本でも制度化が必要だと思いました。
・性被害支援には多くのマンパワーと教育、環境の整備が必要であるという事が分かりました。
実際の現場での様子や対応がイメージできました。
・日本の現状と課題がよくわかり、自身の活動のよい振り返りができた。
・性暴力被害の多くが、トラウマ体験であること。
・急性期のトラウマ症状について，被害者の方の中でも症状に個人差が非常に大きいこと。
・被害者に二次被害を与えないために私たちが学んでおかなければならないこと
・小西先生の被害直後はアセスメントを避けた方が良いとのご意見にジレンマを感じています。
・急性期の被害者に対する迅速で合理的な具体的対応方法
・日本では、なごみのような充実した支援機関がある一方で、ワンストップが名ばかりのセンターも実際にはあるということ。
これは大きな問題であるとかねてより懸念してきた。そのため、地域によって受けられる支援が大きく異なり、
場合によっては被害者に不利益しか与えていないと考えざるえを得ない機関もある。なごみやネブラスカ州のような取り組みが
標準であり委託の基準となる時代が訪れることを切に願う。力量と組織運営に課題を抱えたまま巨額の公金を投入し続けるくらい
なら、なごみのような機関が他地域に拠点を育てる方が、よほど被害者のためになると確信した。地域によっては、
被害者支援センターの委託運営自体が利権化している。今回のお話を聞かせていただき、やはり病院拠点が最善なのだと
考えざるを得ない。病院組織と連携機関によって被害者支援そのものが適切に見守られることが、必須なのだと改めて実感した。
・認知行動療法についてもっと詳しく知りたいと思った。
・救急医療の現場でこれほどまで手厚い医療やケアを受けられるということ。
・小西さんの「教養としての学びで止まっている」という言葉にハッとさせられました。
・トラウマインフォームドケアを自分自身もしっかりと理解して、またそれを周りの人にしっかりと伝えていくこと。
・小西聖子さんのお話がとても印象に残りました。もっと時間をとって詳しくお聞きしたかったです。
・日本の法改正の不十分さや中長期的支援をする専門家不足等課題がまだまだ多いことを確認しました。
・なごみの現場からの急性期は被害直後だけでなく、PTSD症状が発覚した時も急性期ととらえること
・きちんと長期にわたるケアとチーム介入出来るスタッフの確保　取り組みが必要と感じた。

〈アメリカでの取り組みを踏まえて〉
・米国と日本の専門的対応、システム構築の差
・性被害にかかわらず、相談が来た場合警察に繋げる意識が高かったのですが、病院と連携されている機関の話を日本とアメリカと聞かせていただいて、患者の安全安心とつながる病院との連携について考えさせられました。
・性被害者支援について、日米の取り組みを具体的に知れたこと。
・アメリカでの他機関との連携(SART)がとても印象に残りました。被害に遭われた方々が必要とされているサポートに対して、発見力・傾聴する力を磨き、連携先と情報共有しながら細やかなサポートが出来るように努めたいと思います。
・犯罪率を上げることも目的に入っていて、日本でも必要だと思った。
・日本でDV（性被害）に対する取り組みをしている機関があり患者をケアされていることを学んだ一方で、先進国の中でも取り組みが遅れていることは残念に思いました。今回はエイミーさんのお話でアメリカでの実際の様子を知ることができたため、日本で取り入れ可能な部分は取り入れ、患者への適切な支援が進んでいけばと思いました。
・米国の病院の被害者のためのプログラムがシステム化され、SARTの役割等が印象に残った
・本シンポジウムの課題は，非常にシリアスで大きな課題であるにも関わらず，国内では認知度が欧米に比して低いと察せられ，プロジェクトの活動の広報や周知が必要と感じた．特に，米国ネブラスカチーム大学からの報告は多くの共通部分とHIV対応などの異なる部分が明らかになった．よりシステマティックな手法の導入が必要と感じた．
・ネブラスカの救急においてＳＡＮＥが医療・証拠採取、患者中心としたＴＩＣを提供し活躍されていること。
・COVID-19によるDV相談の減少がなごみでもネブラスカのほうでも同じ傾向がみられたとのこと。その現象の実態が根拠あるデータとして見えてこないが真実の理由？がわかると、今後の対策に役立つのではないかと感じました。
・COVID-19で性被害の報告数が減っていること。海外ではB型肝炎やHIV感染にも対応していること。
・被害から７２時間という目安があるが、被害から１２０時間という目安、破傷風、B型肝炎、HIV等被害後の感染症として扱手厚さ。
・アメリカのＳＡＮＥ看護師は法廷にも立つことがあると聞いたのは印象的でした
・アメリカと日本では、資金調達に大きな差がある
・関係機関との連携や被害者への接し方など、両国の被害者支援の基本は同じだと思い、少し安心しました。
・被害直後の急性期対応における医療機関の役割の重要性。医師であるヘルナンデス氏がSANEの能力を高く評価し信頼していること。

〈運営に関して〉
・資料を後ほどHPにｕｐしていただけると聞いて安心した。聞き漏らし等、しっかり見直したい。
・通訳のすばらしさ

今年度の到達点②：

（目標）トラウマ・PTSD拠点を開設し実働を開始する。

実施項目②-1：トラウマ拠点を開設し、連携センターで受け入れた被害者のトラウマ・PTSDの予防・治療・回復への介入および相談窓口とするとともに、治療ケアに従事するスタッフの育成を行う。

実施内容：

- トラウマ拠点設置準備委員会を構成し、設置場所、活動内容を決定→対応中
- PTSD の予防・治療・回復への介入、相談、治療ケアに従事するスタッフの育成
  -トラウマインフォームド・ケア研修として CARE 講座を 2 回実施した。
  2021 年 11 月 9 日（火）10：00～16：00
  岐阜県子ども相談センター、対象：児童福祉司　24 名
  2022 年 1 月 26 日（木）10：00～16：00
  看護実践研究センター 対象：子どもと関わる専門職　16 名
- R3 年 12 月までにトラウマ拠点を設置し、連携センターで受け入れた被害者のトラウマ・PTSD ケアを開始　→時期の変更
- 定期的な専門分野内および内外合同の事例検討会、熟練者によるスーパービジョンなど、オンラインを活用して定期的に実施→時期の変更

変更点とその背景・理由等：

全体的に計画の実施が遅れている。新型コロナ蔓延防止対策がとられたため、対面実施が不可能となり、スタッフ育成の場が限定された。トラウマ拠点設置場所の検討について、大学との連携案が出され、対応中である。

成果：

- トラウマインフォームド・ケア研修としてCARE講座について、主な感想としては、2回ともに、ロールプレイが実践的、楽しく学べる、わかりやすい、実践したい、職場でひろめたいなどがあり、回答者全員から、かなり高い満足度が報告された。看護実践研究センターの定期講座として定着した。

実施項目②-2：性暴力被害の影響およびPTSD症状の可視化

実施内容：

- ウエアラブルデバイス（Apple watch、Copresence）によるPTSD症状と治療効果の可視化の試行
- 毎月のPEワーキングで、PEセラピストの育成のためのプログラミングを具体化した。

変更点とその背景・理由等：

ウエアラブルデバイスについては、指に装着するCopresenceに加えて、皮膚に装着するMybeatを試行に追加した。指に装着することに違和感を覚えるクライエントがいる可能性を検討し、追加した。しかし、TF-CBTの実施件数が少なかったため、実施が遅れている。

成果：

- PE2ケース（1中断、1終了）、CPT1ケース（終了）実施した。

今年度の到達点③：

（目標）被害者を適正な支援・治療につなぐ、地域内多機関・多職種の代表者による常時対応可能な連携チーム（MDT）体制を整える。

実施項目③-1：常時対応可能なMDTを目指し、現場との合意形成のプロセスを具体的にすすめる。

実施内容：

- 小規模（名古屋中央児童相談所となごみ）メンバーから開始し、徐々に名古屋市の3児童相談所相→愛知県児童相談所というように参加メンバーを募っていくというプロセスの促進
  - 1カ所の児童相談所となごみのMDTワーキングに警察関連のメンバーが加わり、愛知県警との対話を開始した。

- なごみ、児童相談所、愛知県警で、成功例や検討を要する例について個別のケースで具体的に話し合い、連携フレームワークを複数具体化した。

変更点とその背景・理由等：

- 個別のケースについて取り組む機会として、支援のプロセスをストーリー仕立てにした多機関多職種合同研修で連携を拡大する計画だったが、MDT連携には時間がかかることが予測され、連携フレームワークを蓄積し、今後の対応や全国展開に生かせるプロトコルとしてまとめることから始めることにした。

成果：

- 複数のフレームワークが具体的に作成されている。
  - きょうだい間の加害と被害
  - 母親がコンタクト窓口で、被害児に支援が届いていない
  - 同級生からの被害
  - 被害児の自殺企図が懸念される
  - 証拠採取から被害届につながっていないケース

  など

実施項目③-2：UKで開発された支援者研修ISVA（Independent Sexual Violence Adviser）オンライン研修活用し全国展開の土台を築く

実施内容：

- 全国組織で構成した ISVA-JAPAN により、全国展開を前提に OSC 支援者研修として導入し、MDT を推進（当事者団体、犯罪支援サポートセンター、病院拠点型 OSC、内閣府ワンストップ検討委員、英国大使館など）。

図 2　ISVA-JAPANプロジェクトチーム

ISVA（Independent Sexual Violence Advisor）は、イギリスの、性暴力被害者支援に関わる資格の1つです。Sexual Assault Referral Centre（SARC：イギリスの性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター）やレイプクライシスセンターに所属し、警察や司法機関とは独立した存在として、被害者の刑事司法プロセスの支援を行います。

2021 年 9 月 26 日の 150 名定員のオンラインワークショップで ISVA の周知後、16 人定員のオンライン ISVA 研修を実施した。
トレーニング実施はAlison Eaton氏（独立系コンサルタント、元警察官警察の上級刑事として内務省と共に ISVA の役割を発展させた）であり、警察の関わりを深めることが大切と考え、全国のワンストップ支援センターにアプローチするとともに、警察関連にも個別にワークショップへの参加を呼びかけた。

表 2　ISVA研修のお知らせ

ＩＳＶＡ研修実施のお知らせ

ＩＳＶＡ研修（オンライン：通訳付き）を実施します。
つきましては、参加いただける方を下記の通り、若干名募集します。
本ワークショップ後のアンケート内で参加希望を募るURLをご案内いたしますので、
関心がある方はご確認ください。
詳細がきまりましたら、後日メールにてご案内いたします。
なお、定員に限りがあるため、ご希望に添えないこともございますので、ご承知おきください。

- 2021年11月～2022年２月のうち10日間（英国との調整で18時～23時のうち１日3時間の予定）の全日程に参加いただける方（日程は参加希望を出してくださった方にお伝えします）
- 現在、性暴力・性犯罪被害者の支援に携わっている方
- 今後、日本におけるＩＳＶＡの普及にご尽力いただける方

ＡＣ　日本へのISVA導入
Introducing the Independent Sexual Violence Advisor role in Japan
The Professional Curiosity Company

オンライントレーニング　スケジュール（各セッション、休憩含み3時間） Virtual Training - Sessions will run UK time (3 hours including breaks)			
Session 1	1月15日（土）	18-21 JPN	9-12 UK
Session 2	1月16日（日）	18-21 JPN	9-12 UK
Session 3	1月18日（火）	18-21 JPN	9-12 UK
Session 4	1月20日（木）	18-21 JPN	9-12 UK
Break – Learner task　課題			
Session 5	2月3日(木)	19-22 JPN	10-1 UK
Session 6	2月5日（土）	18-21 JPN	9-12 UK
Session 7	2月6日(日)	19-22 JPN	10-1 UK
Break – Learner task　課題			
Session 8	2月15日（火）	18-21 JPN	9-12 UK
Session 9	2月17日（木）	19-22 JPN	10-1 UK
Session 10	2月20日（日）	19-22 JPN	10-1 UK

表 3　ISVA 10日間オンライン研修

成果：

- ISVA10 日間研修には全国から 16 名が参加した（12 名ワンストップ支援センター関連、4 名警察関連）。
- 10 日間の研修後、UK トレーナー（Alison 氏、Ceri 氏）による対面インタビューにより、ISVA トレーニング修了となる（2022 年 12 月 UK トレーナー来日予定）

実施項目③-3：情報共有においてはガイドラインを作成しチームで共有する

実施内容：

- 愛知県警との定期ミーティングを開始し、具体的な課題を共有した。
- 愛知県主導の協議会を形成し、定期の多機関連携会議第1回を実施した。
  - 愛知県が示している支援体制スキームを実践的な内容にする検討を開始した。
  - 協議会メンバーは、愛知県（愛知県防災安全局県民安全課）、愛知県警、犯罪被害者サポートセンター、ハートフルステーションあいちに、将来的には連携センターを加える。

変更点とその背景・理由等

個人情報保護法、名古屋市個人情報保護条例 、児童虐待防止法など関連の法令とそれに基づく大学、病院、児童相談所、警察との協定書の締結の必要性などをふまえてガイドラインを作成、という計画だったが、紙ベース、電話、FAXのみでの情報共有を前提としているため、プロセスがすすまなかった。ISVAや米国視察でのMDTにおける情報共有など、日本の体制ではまだ実現は難しい。愛知県においては、被害者支援法に基づく早期援助団体は、愛知県犯罪被害者サポートセンターのみであることもプロセスがすすまない背景の一つである。令和4年4月1日に施行予定の愛知県犯罪被害者等支援条例では、新たに民間支援団体への犯罪被害者支援に係る個人情報の適切な管理について定められた。協定書の締結の選択肢に加えて、情報共有の範囲について話し合うことができると考えた。警察との定期ミーティングや事例検討などの活動を共有して、課題の共有から開始することにした。

成果：

- 愛知県の「組織間連携スキーム」をモデルの土台として活動を開始した。

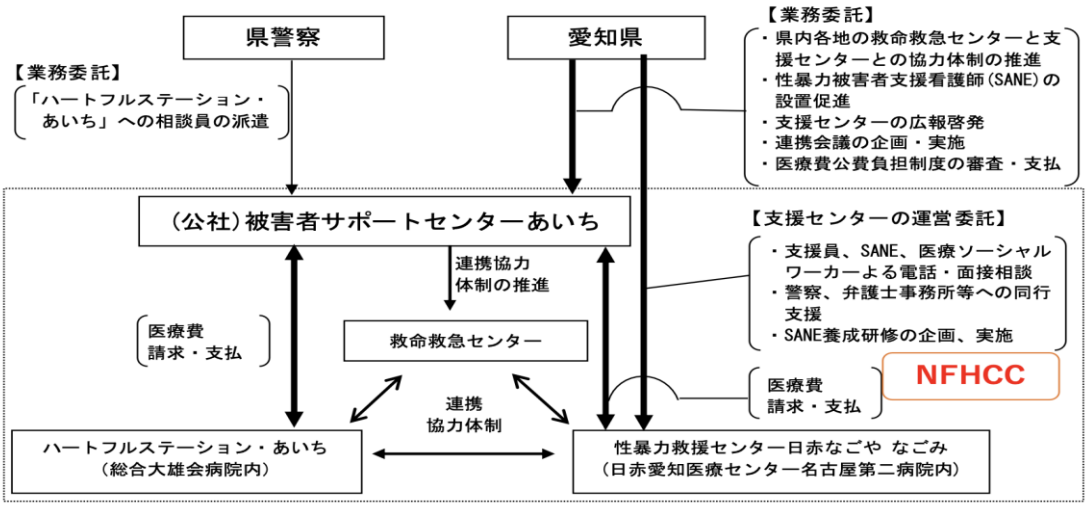


表 4　愛知県組織間連携スキーム

今年度の到達点④：

（目標）性暴力被害の現状と、身体的･精神的･社会的・経済的インパクトを、中長期的に分析・可視化するためのデータ収集・分析環境を、拠点内に構築する。また、拠点間、多機関・多職種間の連携を支援するための共通項目体系を構築し、データ化を進める。

実施項目④-1：MDTが迅速なアセスメントと決断により適正に対応するために組織間での性暴力・虐待に関する情報連携に必要な項目を明確にする

実施内容：

- 各組織における情報のデジタル化を推進するための研修の実施、ツール・データフォーマットの検討・提供、導入の働きかけ
- なごみにおける情報収集ツールのブラッシュアップと外部機関による入力を可能とするための働きかけ
- MDTの実現に向けた条件ごとのワークフローの策定と、関連する共有項目の明確化

変更点とその背景・理由等：

ツール・データフォーマットを各所に導入するための下地作りに注力しているためそれを明確化

成果：

- なごみにおいて、情報収集ツールとして、当該システムが定着した。ほぼ全てのなごみのスタッフが入力に慣れたことにより、外部との連携利用などの検討が可能となった。
- なごみへの情報提供、なごみからの情報提供ツールとして、外部よりアクセスが可能となるように各所と調整を進めつつある。
- MDT 検討ワーキングを毎月開催し、不明瞭であった各組織間の連携方法について、テンプレートを構築している。令和 3 年度では「自殺企図が懸念される場合」「兄弟姉妹間の性的被害の場合」について連携フローを明確化できた。
- 上記テンプレートは、担当者や担当部署を入れ替えることで、他地域展開が可能である

実施項目④-2：トラウマケアおよびPTSD治療効果を集積して可視化・応用する。

実施内容：

- PE および心理教育に使用する効果測定尺度入力システムを開発した。

  実施に向けてテスト使用する。

- なごみ来所時の対応（アドボケーターおよびSANE）についてデータ

  集積するために、利用者満足度調査アプリを開発し、研究倫理審査委員会に申請した。承認を得て実施を開始予定である。

変更点とその背景・理由等：

なごみ利用者について、架電のみの場合は依頼が難しいため、来所者に限定することにした。

成果：

- なごみでのトラウマ・PTSD ケアおよび治療について、や効果の可視化やデータ集積だけでなく、作業の簡便化や時間短縮などの業務改善につながる。
- なごみの対応について、提供している基本的な支援についての評価が具体的になった。主観的評価であるため、日常の支援内容の改善に加えて、他のデータと合わせて総合的に分析する。

実施項目④-3、④−4： 次年度開始

実施項目④-5：性暴力被害の現状および被害が与える身体的･精神的･社会的・経済的インパクトを可視化する。

実施内容：

- 1回/月のワーキングで、なごみの6年間のデータを分析し、社会経済

的影響を可視化するためのデータ項目を検討した。

- NHKによる性暴力被害者への大規模アンケート調査を共同で実施した。
  - NHK「みんなでプラス“性暴力”を考える」のホームページで実施
    回答期間：2022年3月11日（金）～4月30日（土）昼12時まで
    回答方式：WEBフォーム から　匿名回答
  - アンケートに答えられる QR コードを付けたカードを若い女性が立ち寄る所(トイレ・コンビニ・大学)に置く。
  - 問題数は５０問＋回答者の属性１０問程度
    尊厳に関する調査項目（心理的・身体的・経済的・社会的影響、自殺、周トラウマ反応、PTSD症状などとクロス集計予定）

成果：

- なごみのデータから示唆された内容
  - 被害後の来所1 年以上経過しているグループと1年以内のグループに複数の項目で違いがある。
  - 家族から性被害を受けると、家族以外が加害者である場合と比較して、状況は深刻で回復が遅くなっていた。
  - 全体的な傾向として、離婚・連れ子再婚などの脆弱な家族背景、加害者を温存している社会、女性の貧困・非正規雇用問題、DV被害女性が加害者にならざるを得ない社会の状況が示唆された（精査が必要）。
  - 今後の分析作業として、早期発見早期介入による効果（対応遅れとの違い）、保険が使える条件を整理 、賃金センサスを用いて、損失所得を計算する、などが具体的になった。
- NHKアンケート
  - 2022年4月30日回答終了時　35000件以上の回答が得られている。
    5月15日にアンケーと分析会議予定である。

今年度の到達点⑤：

（目標）啓発・教育・広報活動：性暴力の理解を深める講演、研修、性教育の提供
実施内容：学校や各機関からの依頼や提案による講演や研修（オンライン含む）
新聞、テレビなどの取材

- 過去に性暴力を受けた女性が出産をするときに必要なケアについて書かれた以下の本を翻訳した。
  原著：When Survivors Give Birth: Understanding and Healing the Effects of Early Sexual Abuse on Childbearing Women
  Penny Simkin/ Phyllis Klaus, 2004,　Quality Code Pub
  想定読者：産婦人科医師、助産師、看護師、心理士その他医療関係者、産婦人科・助産教員、ドゥーラ、学生・院生、暴力を受けた女性の支援職、女性本人

WSGB翻訳プロジェクトチーム

- 翻訳刊行記念シンポジウム「性暴力サバイバーが出産するとき：求められるケアとは」を、静岡と名古屋で開催した（ハイブリット）。

【静岡】13:30-16:30(13:15開場)

日時：2022年1月29日（土）13時30分～16時30分

場所：静岡県男女共同参画センターあざれあ第２研修室

【名古屋】

日時：2022年1月30日（日）9時30分～12時30分

場所：日本福祉大学名古屋キャンパス南館

【プログラム】

＜静岡・名古屋共通：翻訳プロジェクトメンバー＞

-危機的妊娠と養子縁組からみえる女性の性被害：白井千晶（静岡大学/社会学/全国養子縁組団体協議会）

-性被害者のトラウマとケア：長江美代子（日本福祉大学/一般社団法人日本フォレンジックヒューマンケアセンター/SANE-J）

-サバイバーが出産するとき：ドゥーラシップジャパン

＜静岡シンポジスト＞

-性暴力被害者支援看護職（SANE）の視点から：藤田景子さん（静岡県立大学/SANE/助産師）

-助産の実践から：草野恵子さん（くさの助産院/院長）

＜名古屋シンポジスト＞

-性暴力救援センターの活動から：江口美智さん（性暴力救援センター日赤なごや　なごみ/SANE/助産師）

-助産の実践から：加藤佳代子さん（性暴力救援センター日赤なごやなごみ/SANE/助産師）

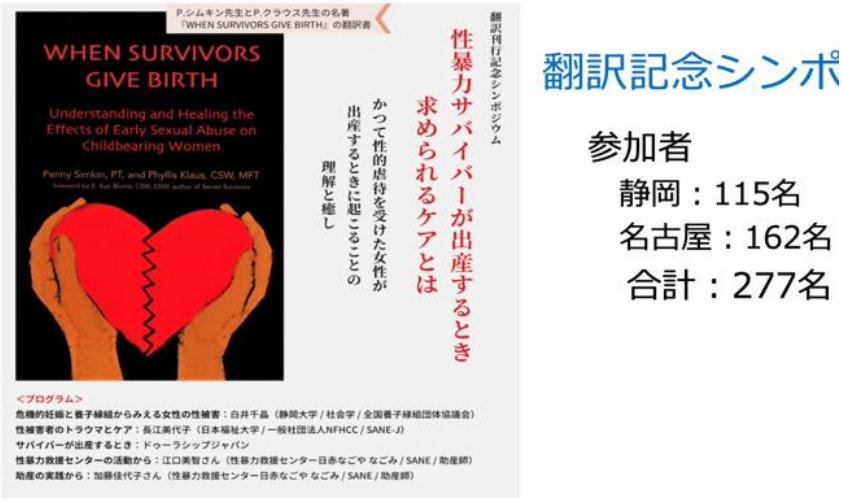


図 3　翻訳シンポジウムチラシ

- 性暴力被害者支援の現場で使える性教育の絵本を作成した。

「はなれるいのち」監修：長江美代子・江口美智、作・絵：あすみさ
「宿るいのち・逝くいのち」監修：江口美智・長江美代子　作・絵：あすみさ
出版社：株式会社ともあ　2022年1月15日出版

図 4　絵本の紹介

- 絵本「はなれるいのち」「宿るいのち・逝くいのち」出版記念フォーラム「～子どもの性暴力被害と支援を考える～」

日時：2022年3月13日（日）14：00～16：30

場所：オンライン（zoom）
主催：オフィスＪＯＣ：Japan Okan Consultant
参加費：3000円（収益の一部を日本フォレンジックヒューマンケアセンターに寄付）

【フォーラムの趣旨】

子どもへの性暴力被害の実態と事例や支援団体の活動を知り、絵本の読み聞かせを通して自分事として感じて考えてもらいます。集まった仲間と対話をすることで、それぞれの立場でできる支援を考えます。なお本フォーラムは、性暴力支援活動をしている団体「一般社団法人日本フォレンジックヒューマンケアセンター」と、「認定NPO法人ビフレンダーズあいち自殺防止センター」に収益の一部を寄付いたします。

【出版物】

「はなれるいのち」「宿るいのち・逝くいのち」出版社ともあ　2022年1月15日出版

【ファシリテーター】

・長江 美代子： SANE-J・専門看護師・公認心理師
・江口 美智： 助産師・SANE
・岡山 明日香（あす）：保育士・あったかい心を育てる保育アドバイザー
・岡山 ミサ子（みさ）：オフィスＪＯＣ代表あいち自殺防止センター理事

成果：

- 翻訳記念シンポジウム参加者　合計277名（静岡115名、名古屋162名）。出版は2022年6月予定
- 出版記念フォーラム参加者48名。絵本は、なごみ連携推進機関、教育委員会、児童相談センターその他に80冊謹呈した。
- 助産雑誌4月号（Vol.76 No.2）医学書院

（４） 当該年度の成果の総括・次年度に向けた課題

- OSC なごみハブモデルのスタートは、COVID の影響により遅れ気味ではあるが、確実に連携センターの SANE は育成されている。積極的に手上げしている病院もあり、SANE 受講の席を多く提供するなどして、個別に連携センターとして活動開始の目処ができた。
- トラウマケアセンターについては、拠点候補が確定しないことで活動が遅れているが、大学との連携、拠点病院との連携、災害センターの活用などいくつかの案について、具体的に話し合いをすすめている。
- 子ども・思春期の家族からの被害が COVID を機に表面化している。地域内にはチャイルド・アドボカシーセンター（CAC）設置を検討する病院も出てきている。なごみにおいても子どもワンストップ機能の強化が必要である。人材育成として、まずは地域内で、司法面接実施に加えて系統的全身診察ができる医師の育成をすすめる。

  2022.5.14（土）認定特定非営利活動法人チャイルドファーストジャパン（CFJ）による「出前型　被虐待児診察技術研修」開催予定（すでに予約は定員30名の達した）

  対象：小児科、産婦人科、救命救急センター、精神科など、被虐待児の診察をする可能性がある医療機関で診療されている医師を優先

  場所：日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院　研修ホール
- **課題**：実践的MDTモデル構築には個人情報共有の課題が継続している。次年度は、すでに提示されている愛知県の「組織間連携スキーム」を土台に定期的に対話し、縦割りになっているDV・性暴力・虐待の窓口を統合し、モデル化を目指す。

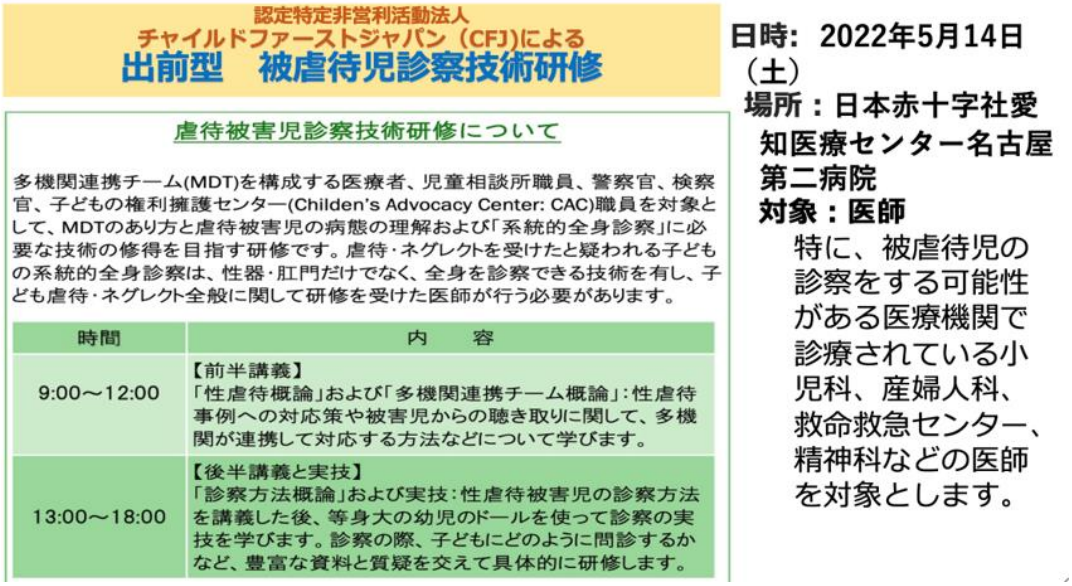


図 5　被虐待児診察技術研修チラシの一部

２－３．会議等の活動

年月日	名称	場所	概要
定期月1回	プロジェクト（NGM4S：Nagomi for Survivors）会議	zoom	プロジェクト活動の報告及び検討
定期月1回	MDTワーキング	zoom または teams	データ共有のための多職種多機関連携チーム（MDT）の構築と合意形成
定期月1回	データ入力ミーティング	zoom	なごみのデータ項目の決定と入力システムの開発と実装
定期月1回	SEワーキング	zoom	性暴力の社会経済的影響について
定期月1回	PEワーキング	zoom	PTSD治療効果、支援者育成支援
2020.10~2021.1	第８回性暴力被害者支援看護職（SANE）養成プログラム	zoom対応	8日間〔64時間〕のプログラムであり、看護師/助産師/保健師の資格保持が受講要件。
2021.11.9	CARE(大人と子どもの絆を深めるプログラム)	日本福祉大学東海キャンパス	看護実践研究センターのトラウマインフォームドケアとして実施
2021.11.22	愛知県警とのミーティング	なごみ	被害者統計、性犯罪証拠採取キット、情報共有、司法面接、MDT、公費負担、その他について
2022.1.27	CARE(大人と子どもの絆を深めるプログラム)	日本福祉大学東海キャンパス	看護実践研究センターのトラウマインフォームドケアとして実施
2022.1.15～2.20	ISVA10日間トレーニング	zoom	UKトレーナー（Alison氏、Ceri氏）による。 全国から16名が参加した（12名ワンストップ支援センター関連、4名警察関連）
2022.1.29 & 30	翻訳刊行記念シンポジウム：性暴力サバイバーが出産するとき：求められるケアとは	対面＆zoom	【静岡】日時：2022年1月29日（土）13時30分～16時30分 参加者：115名 【名古屋】2022年1月30日（日）9時30分～12時30分 参加者：162名
2022.3	第１回愛知県関連組織連携会議	愛知県県庁	組織間連携スキームを実働させるための検討会
2022.3.28	愛知県警とのミーティング	なごみ	職員の移動による新メンバーとの面会と、MDTについて県警との今後の具体的な関わりについての方向性と課題について確認。

３．研究開発成果の活用・展開に向けた状況

NHKのHP「みんなでプラス“性暴力”を考える」との共同による大規模性暴力ＷＥＢ実態調査アンケートを実施した。現在約38000件の回答が寄せられ、現在分析中。

４．研究開発実施体制

（１）研究グループ

グループリーダー：長江美代子（日本福祉大学、教授）

役割：NGM4S救援システムの実践評価修正とエビデンス蓄積の準備、システムの拡充と全国展開に向けての計画を練り遂行する

概要：アンケート調査で募った愛知県内の協力可能な精神科診療施設約32カ所（個人専門家の協力も含む）の協力を得てトラウマ・PTSD拠点を設置し、被害者への科学的根拠に基づいたPTSD治療およびケア提供を確保する。その上で、（一社）日本フォレンジックヒューマンケアセンター（NFHCC）と協働し、虐待専門医師、性暴力被害者支援看護師（SANE）、支援員、PTSD専門家その他、システムにかかわるスタッフ育成のための教育研修を企画実施する。

（２）なごみグループ

グループリーダー：片岡笑美子（一般社団法人日本フォレンジックヒューマンケアセンター、会長）

役割：性暴力被害者支援の実践、病院拠点型OSCの運営、地域への拡大に取り組む。

概要：地域の連携病院とともに「なごみハブモデル」を構成し、その連携の中心として、IoT/情報連携支援グループにより作成開発された情報連携システムや応用プログラムを実践に乗せ、ＳＡＮＥのスキルアップとMDTの活性化に取り組み、その実践モデルを示す。連携病院スタッフの研修やワンストップ導入時のコンサルテーションとスーパービジョンはNFHCCが提供する。

（３）IoT/情報連携支援グループ

グループリーダー：榎堀優（名古屋大学・大学院情報学研究科・講師）

役割：なごみを中心に構築された地域内ステークホルダーとのネットワークと協働し、連携の基盤となる情報システムなどを作成開発する。

概要：連携に必要な情報や、情報の流れ、連携要求を明確化し、組織間連携スキームと、それを補助するシステムの構築、データベースの共通化やデータ共有のしくみの構築にとりくみ全国展開につなげる。研究グループとともに病院拠点型OSC活動データの分析により現状の数値化、各種活動の実施をサポートするシステム（例えばPE実施を補助するAIなど）を構築する。

（４）連携グループ

グループリーダー：小笠原和美（慶応大学総合政策学部・教授）

役割：多職種･多機関の代表が定期的に集まることができている状況を土台に、

「NGM4S救援システム」の効果を高める常時対応可能MDT構築に関わる。

概要：IoT/情報連携支援グループと協働してデータ連携を実現することに加え、実践的なMDT体制を構築するために、犯罪被害者サポートセンター系のOSCと病院拠点型OSC（警察関連と医療関連）、自治体と民間をつなぎ、全国のOSCのレベル向上につなぐプロセスを模索する。

５．研究開発実施者

研究グループ

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職（身分）
長江美代子	ナガエミヨコ	日本福祉大学	看護学研究科	教授
小西聖子	コニシタカコ	武蔵野大学	人間科学部大学院	教授
Edna Foa	エドナ　フォア	University of Pennsylvania	Center for the Treatment and Study of Anxiety	教授

なごみグループ

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職（身分）
片岡笑美子	カタオカエミコ	一般社団法人日本フォレンジックヒューマンケアセンター		会長
山田浩史	ヤマダヒロシ	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院	第一泌尿器科／なごみ	部長／センター長
小瀬裕美子	コセユミコ	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院	看護部	副看護部長／なごみ副センター長
山室理	ヤマムロオサム	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院		副院長
加藤紀子	カトウノリコ	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院	産婦人科	部長
坂本理恵	サカモトリエ	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院	医療社会事業部	係長

IoT/情報連携支援グループ

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職（身分）
榎堀優	エノキボリユウ	名古屋大学	大学院情報学研究科	講師
間瀬健二	マセケンジ	名古屋大学	数理・データサイエンス科学教育研究センター	特任教授
林直美	ハヤシナオミ	株式会社マイ.ビジネスサービス		副社長
大沢真知子	オオサワマチコ	日本女子大学	人間社会学部現代社会学科	教授

連携グループ

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職（身分）
小笠原和美	オガサワラカズミ	慶応大学	総合政策学部	教授
渡邊勝徳	ワタナベカツノリ	愛知県	防災安全局県民安全課	課長
原　恵	ハラメグミ	内閣府	男女共同参画局男女間暴力対策課	係長
稲葉隆司	イナバタカシ	名古屋市	中央児童相談所	所長

６．研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など

６－１．シンポジウム等

年月日	名称	主催者	場所	参加人数	概要
R3.11 11.20	シンポジウム： 救急&パンデミック における性暴力・DV 対応とトラウマイン フォームド・ケア	NGM４ S	zoom	160名	2021.11.20 米国ネブラスカ大学メディカルセンター(UNMC)救急部門のチームと協働 webinar 救命救急センター外来での性暴力被害初期対応を具体化した。 クライエントセンタードのトラウマインフォームド・ケアについて
R４ 1.29& 30	翻訳刊行記念シンポジウム：性暴力サバイバーが出産するとき：求められるケアとは	対面& zoom	対面& zoom 静岡 1月29日 名古屋 1月30日	115名 162名	翻訳プロジェクトメンバーと、各地域のシンポジストで訳本の内容紹介と、性暴力被害、ドゥーラ、助産の実践、SANEの実践についてディスカッションした。
R4. 3.17	令和３年度性暴力被害防止セミナー： 性暴力被害の実態や、被害者に対する支援について知っていただくとともに、被害から自らの身を守る方法について学ぶ。	愛知県防災安全局県民安全課安全なまちづくりグループ	愛知県立総合看護専門学校	約200名	性犯罪・性暴力被害者の心のケア（精神看護）について（長江美代子） 性犯罪・性暴力被害者の現状及び支援について（片岡笑美子）

６－２．社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など

（１）書籍、フリーペーパー、DVD

・「はなれるいのち」監修：長江美代子・江口美智、作・絵：あすみさ、ともあ出版、2022年
・「宿るいのち・逝くいのち」監修：江口美智・長江美代子　作・絵：あすみさ、ともあ出版、2022年
・なぜ私は凍りついたのか（花丘ちぐさ 編集）・11章性暴力被害裁判とポリヴェーガル理論(pp. 217-233)、長江美代子、春秋社、（2021）

（２）ウェブメディアの開設・運営
（３）学会以外のシンポジウム等への招聘講演実施等

６－３．論文発表

（１）査読付き（　０　件）

●国内誌（　０　件）

●国際誌（　０　件）

（２）査読なし（　１　件）

・長江美代子、性暴力被害者の看護支援：ワンストップ支援ワンストップ支援センターの活動とトラウマケアの重要性. 精神科看護, *48*(13), 50-61、 2021.

６－４．口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）

６－５．新聞報道・投稿、受賞等

（１）新聞報道・投稿（　２　件）

信濃毎日新聞 2022年（令和4年）3月12日（土曜日）	中日新聞　24 2022年（令和4年）3月25日（金曜日）

（２）受賞（　０　件）

（３）その他（ＴＶ報道　２　件）

・広島ＮＨＫ　2021.11.16（火）20:00-20:30ＴＶ「性暴力被害のトラウマ 当事者の苦しみ」

・ＮＨＫ総合　2022.1.19（水）7:00-7:45　おはよう日本「性暴力被害者を支えるトラウマケア」

６－６．知財出願

（１）国内出願（　　０　件）